

歳出 第1 専門委員会【総務教育分野】

重点

ICT教育

①学力向上・指導力向上事業について

Q: ICTを活用した学力向上と指導力向上のための教職員の取り組みは。

A: 各学校のICT担当者と不慣れな教員を対象としたICT教育研修会を6年度も継続し、多くの教員にICTを活用した授業を参観いただく予定です。ICTの活用により、講義型授業からの脱却と主体的、対話的で深い学びを推進します。

②実践的指導力向上のための各種研修会開催事務について

Q: 研修の内容にICT教育に関する内容は入っているか。

A: ICT教育研修会を開催することで、教職員のICT活用の技能を高め、児童・生徒の学びにつなげていきます。

③小学校プログラミング教育推進事業について

Q: 目標設定(達成状況等)をどのように定めているか。

A: 岩手県立大学の学生によるNPO法人「IRCプロジェクト」へ各小学校でのプログラミング授業を委託しています。目標

値は、学生の各学級への派遣者延人数から定めています。派遣は1学級あたり最大3名で、各学級2時間で実施されており、現在、165人を目標としています。

④小学校教育用コンピュータ管理事業について

Q: 実施内容は。

A: 学校でのICT教育が円滑に行えるように校務用パソコンや児童生徒の教育用タブレット端末の保守管理を行うほか、ウイルス防止対策として校内LANネットワークの保守管理等を専門業者に委託して行います。

⑤中学校教育用コンピュータ整備事業について

Q: 実施内容は。

A: 教職員が使用する校務用パソコンを対象に使用開始から6年が経過する滝沢南中、滝沢第二中、一本木中、滝沢中の4校の更新を行います。

【審査の視点】

- 6年度でのタブレット活用(家庭での活用も含む)
- 学習教科や授業構成において統一的な活用
- 教員の研修(指導力向上)



【総括質疑】

《ICT教育》

Q 電子黒板の整備方針は。

A 電子黒板や大型モニター等の大型提示装置は活用場面に応じて普通教室より順次整備を進めています。6年度は12台購入し、年度末には普通教室全体への配備率が100%を満たす見込みです。

Q 家庭でのタブレット端末の活用方針は。

A 持ち帰り学習は市教育委員会からの学習者用タブレットの持ち帰り学習についての通知に基づき、発達段階に応じて例示された内容を各小学校長の判断で順次実施しています。



【重点項目以外の質疑】

《滝沢市ホームページ管理運営事業》

Q 6年度改修に伴う管理システムの更新の内容と、改修による効率化の見込みは。

A システムの全面的なリニューアルは11月末に完了します。改修によりシステムの脆弱性が解消され、これまで以上に職員が誰でもホームページの編集やSNSの発信が簡単にできるようになります。

《公用車更新事業》

Q 今後、公用車の電気自動車への切り替えは。また「脱炭素化推進事業債」の起債は6年度だけか。

A 契約電力量や充電設備の課題もあり、全車両の切り替えは考えていません。6年度は電気自動車の軽貨物1台とします。「事業債」は7年度まで利用できる地方債ですが、7年度は普通自動車を更新する予定のため、起債はしません。電気自動車の導入は財源をみながら検討します。

歳出 第2 専門委員会【環境厚生分野】

重点

総合福祉センター(仮称)

①重層的支援体制整備事業について

Q: 事業の方向性は。

A: 5年度の準備期間を経て、6年度は庁内外関係機関との連携体制の構築、多機関協働の取り組みを行います。

Q: 包括的相談支援体制の構想は。

A: 体制を構築するため、庁内外の関係機関が一体となった研修などにより、情報や知識の共有化を図っていきます。

②こども・子育て支援推進事業について

Q: ファミリー・サポート・センター事業などの充実に向けた体制強化策は。

A: 提供会員を増やすことが課題であると捉えており、その対応として、委託業者による情報誌の配付や学童への出張説明などを行う予定です。

【審査の視点】

- 妊娠、出産、子育てに関する知識の普及は。
- 一体的な相談支援や困難を抱える子ども家庭に対する総合支援は。
- 子育て世代の定住につなげるための経済的支援は。
- 重層的支援体制は。
- 健康行動などを促す健康づくりは。
- 介護予防普及啓発は。



重点

滝沢市に必要な医療体制

①患者輸送車運行事業について

Q: 無医地区に対する受診のための交通手段を確保し、早期発見、治療を行うための取り組みは。

A: 庁内関係部署と連携し、検討を行っているところです。

Q: 県の在宅医療強化方針や県内の先進事例などを本事業で検討すべきでは。

A: 県の方針や情報を把握しているものの、本事業での展開は困難であると考えます。

②救急医療対策事業について

Q: 一次医療圏域としての医療資源を確保するための取り組みは。

A: 岩手西北医師会管内で連絡会を開催しており、5市町の課題の共有や連携方法を検討しています。

【審査の視点】

- 岩手西北医師会が抱える課題への対応は。
- 一次医療圏域に必要な医療サービスの広報活動は。
- 在宅医療に対する市民の声の把握は。



【総括質疑】

《滝沢市に必要な医療体制》

Q 市民が感じている本市の医療サービスの実態を的確に把握することを目的としたアンケート調査について、予算編成時や6年度の協議内容は。

A 予算編成時には、企画政策課と健康推進課で協議を行いました。また、6年度は、医療系コンサルタントに業務委託し、専門的知見を介した市民向けのアンケート調査や医療従事者に対するヒアリング等を予定しており、調査方法などを検討します。

Q 地域医療の在り方に関するアンケート調査の前に市民に広報する活動が必要では。

A 本年4月施行予定の岩手県保健医療計画を注視しながら、6年度に予定しているアンケート調査の具体的内容の協議時に、市民に対する広報活動も含め、検討します。



【重点項目以外の質疑】

《環境保全対策事業》

Q 河川水質調査で、今までの6河川9箇所から、7河川12箇所に変更された要因は。

A 5年度に入札残があったことから、急遽3箇所追加しました。自動車の性能などの向上で元年以降、住民からの騒音に関する苦情は無いことから、新幹線の騒音測定と同様に見直しては。

Q 国の基準に基づいて調査しているため、市単独で見直すことはできません。

《老人クラブ活動促進補助事業》

Q 老人クラブ対象者の加入率向上に向けた考えは。

A 課題として役員のなり手不足と、役員になった時の手続きの手間が原因と認識しています。事務的な軽減もサポート支援しながら、活動が平時になることでクラブ加入のメリットを理解していただくことが会員増加に寄与すると考えています。

歳出 第3専門委員会【産業建設分野】

重点 中心拠点を核とした交通網の整備

①向新田線道路改良舗装事業について
Q: 主要地方道盛岡環状線及び県道盛岡滝沢線との結節点の渋滞対策は。
A: 県道との接続部の交差点に右折レーン等を設けます。
Q: ビッグルーフ滝沢でイベントがあった場合の対応は。
A: 計画交通量調査の結果は、イベント時の来場者数は加味していません。

②地域公共交通維持確保事業について
Q: 中心拠点商業地区は市内全域から公共交通で利用可能な計画か。
A: 中心拠点地域は将来の主要な交通結節点と考えており、市内全域からアクセスが可能となるよう具体的に検討します。

【審査の視点】
 ●市の新たな中心拠点とするために近隣地域からだけでなく、市内全域から足を運べる交通網整備が計画されているか。




重点 交通弱者対策

①地域公共交通維持確保事業について
Q: 路線バスの減便による交通弱者への対応策は。
A: 6年度に盛岡交通圏（盛岡市、滝沢市、矢巾町）による公共交通の再編に関する協議を行うこととなっています。また、高齢者への助成や割引などを検討します。
Q: 交通小需要地区で実施した実証実験の結果は予算に反映されているか。
A: 4年度に実証実験を行い、5年度も継続しましたが利用者が少なく、6年度は実験ではなく地元から自前でやりたいとの話があり、委託費として130万円を計上しました。
Q: ボランティアで交通弱者の支援をしている団体への助成は計上されているか。
A: 交通事業者との調整が難しいこともあり、計上していません。

【審査の視点】
 ●路線バスのさらなる減便への対応策は。
 ●デマンド交通、ライドシェアの今後の研究予定は。
 ●交通小需要地区で実施した実証実験の検証は。

【総括質疑】

《交通弱者対策》
Q: 交通弱者への対策は。
A: 6年度は公共交通の再編や利便性の増進を前提とし、具体的な検討に入るため、交通弱者への対応も検討します。
Q: 福祉バスの活用は。
A: 福祉バスの再編を検討するため、6年度は委託費を予算計上しました。
Q: ボランティア輸送への支援策は。
A: 安全管理や既存のバス・タクシー事業者と調整が図られ、公益性があると認められた際は支援を検討します。

《水道事業》
Q: 人材育成のための予算活用は。
A: 外部機関の日本水道協会、日本経営協会などの専門研修の受講費用に活用します。
Q: 漏水対策で調査費が年々増加している要因は。
A: 物価高騰により、委託費や設計単価の上昇によるものです。
Q: 5年度に比べ6年度は2割の増となります。

【重点項目以外の質疑】

《企業誘致事業》
Q: 新たな産業用地の考えは。
A: 中心拠点商業地区の他は、岩手県立大学周辺と滝沢中央スマートーC周辺を考えています。

《水田農業対策事業》
Q: 大幅増の要因は。
A: 防衛省からの補助で、新しい農業協同組合のライスセンターの更新を6年、7年度と継続で行う新規事業が要因です。

《空き家対策推進事業》
Q: 不良度ランクのC、D評価への対応は。
A: 近所からの苦情などの情報により現況を把握し、所有者に文書などの通知や連絡を取って改善策を協議しています。
 空き家の所有者には、空き家の適正管理や空き家バンク、補助金制度などの情報提供を行っています。

【総括的質疑】

総括的質疑は、各分野各事業にまたがっての質疑です。

《有害鳥獣との共生について》
 森林環境譲与税は私有林の現状把握や整備事業の推進に向け、その成果が里山づくりにも向かうものと考えます。
 また、地域の河川の草刈りや地域環境の美化、山際の整備など、有害鳥獣の被害に遭わないための取り組みがあります。

《公共施設の老朽化対策について》
【問】 地域別計画で、緩衝ゾーンとしての「里山づくり」推進について、農政サイドとの連携や予算支援の検討は。
【答】 11の地域別計画では、「里山づくり」の計画はありません。有害鳥獣対策は経済産業部の所管する事業ですので事業の予算は同部にて確保されています。地域が抱えている問題は、担当部署と連携して協働による地域づくりを進めます。
【問】 森林環境譲与税を財源とした里山づくりを進めて、野生生物と共存する方向性は。
【答】 同対策での里山づくりの視点は重要ですが、

【問】 施設老朽化に対応できる建設関係の技術職員が不足しているのでは。
【答】 技術職員は、土木は28名、建築は6名おり、人事ヒアリングからも不足しているとは考えていません。

《発達支援について》
【問】 保育園、幼稚園、担当課、学校、関係機関などが連携したトータル的な支援を行っているが、関係機関などが連携していくための方針は。
【答】 保育園などでの巡回指導、言葉や聞こえの発達に課題の見られる就学前の児童の相談や指導に向けた教室の開催、幼児教室やわくわくクラブの開催、個別の育児相談や言語の相談、心理発達相談などを継続しながら、こども家庭センターを中心として障がい担当や各関係機関と連携し、事業を展開していきます。

《観光について》
【問】 サイクルロードの選定は。
【答】 安全面重視で、魅力的なルートを選定します。
【問】 サイクルリングの途中で市内の自然や歴史、文化を知ってもらうことがアドベンチャー・トラベルの具現化となります。
【問】 ステーション（休憩所）に地名の由来や民話などが盛り込まれた観光案内板を設置し、市への愛着を図る方策は。
【答】 案内板のほかにマップやICT技術の活用など、関係機関と連携していきます。
【問】 ステーションを市内の産業と結びつく場所としたいと考えています。
【問】 滝沢市観光物産協会との連携、人的支援は。
【答】 重要なパートナーで、さまざまな観光物産行事やイベント等で連携し、市職員も人的な面で一緒に取り組んでいます。
 今後、地域おこし協力隊なども考慮し、人材選定に向け協会と意見交換を行っていきます。

【問】 地域別計画で、緩衝ゾーンとしての「里山づくり」推進について、農政サイドとの連携や予算支援の検討は。
【答】 11の地域別計画では、「里山づくり」の計画はありません。有害鳥獣対策は経済産業部の所管する事業ですので事業の予算は同部にて確保されています。地域が抱えている問題は、担当部署と連携して協働による地域づくりを進めます。
【問】 森林環境譲与税を財源とした里山づくりを進めて、野生生物と共存する方向性は。
【答】 同対策での里山づくりの視点は重要ですが、

【問】 施設老朽化に対応できる建設関係の技術職員が不足しているのでは。
【答】 技術職員は、土木は28名、建築は6名おり、人事ヒアリングからも不足しているとは考えていません。

《発達支援について》
【問】 保育園、幼稚園、担当課、学校、関係機関などが連携したトータル的な支援を行っているが、関係機関などが連携していくための方針は。
【答】 保育園などでの巡回指導、言葉や聞こえの発達に課題の見られる就学前の児童の相談や指導に向けた教室の開催、幼児教室やわくわくクラブの開催、個別の育児相談や言語の相談、心理発達相談などを継続しながら、こども家庭センターを中心として障がい担当や各関係機関と連携し、事業を展開していきます。

《観光について》
【問】 サイクルロードの選定は。
【答】 安全面重視で、魅力的なルートを選定します。
【問】 サイクルリングの途中で市内の自然や歴史、文化を知ってもらうことがアドベンチャー・トラベルの具現化となります。
【問】 ステーション（休憩所）に地名の由来や民話などが盛り込まれた観光案内板を設置し、市への愛着を図る方策は。
【答】 案内板のほかにマップやICT技術の活用など、関係機関と連携していきます。
【問】 ステーションを市内の産業と結びつく場所としたいと考えています。
【問】 滝沢市観光物産協会との連携、人的支援は。
【答】 重要なパートナーで、さまざまな観光物産行事やイベント等で連携し、市職員も人的な面で一緒に取り組んでいます。
 今後、地域おこし協力隊なども考慮し、人材選定に向け協会と意見交換を行っていきます。



○第2次滝沢市総合計画の策定について
○地域医療体制の充実に向けた方針について



滝政会
ひなた せいいち
日向 清一 議員



【問】2次総計は市長の公約・市民の声がどの程度反映されたか。
【答】2次総計の策定に当たっては公約のほか、これまで長年にわたり実施してきた「たきざわ幸福実感アンケート」の結果や市長就任以来の Motto である「かしこまらずに対話する」ことを心掛けた。

【問】地域医療体制の充実に向けた推進方針は。
【答】地域医療を取り巻く環境は、人口減少や高齢化の進展による患者数の減少、また、疾病構造の変化に加え、医師の不足や地域偏在などの課題があります。

【問】リカレント教育の推進方針は。
【答】リカレント教育は、学校教育を終えた社会人が、その後も生涯にわたって学び続け、学びと活躍のサイクルを繰り返していくものです。

【問】健康福祉部門を2部門に分割した意図は。
【答】国の「こども家庭庁発足」による体制強化に合わせ、「こども家庭センター」を設置し、相談・支援の強化を図るためです。

【問】中心拠点商業地区開発事業における市内事業者の出店や市民の雇用は。
【答】滝沢市商工会の滝沢市中心拠点市街地整備計画推進委員会に参画し、出店希望者への支援策を検討します。

【問】大学未来共創事業の具体的な構想は。
【答】岩手県立大学では5年度から「企業学群構想」を掲げ、イノベーションセンター・パークの企業と連携した人材育成事業を実施するとしており、市は本事業を通じた学生や大学との連携につながる取り組みを進めます。

【問】確かな学力を育む教育の推進の具体的な方針は。
【答】確かな学力を育む教育の推進の具体的な方針は、



自由民主クラブ
いなりば ゆたか
稲荷場 裕 議員

○総合計画に掲げる重要な視点について
○確かな学力を育む教育の推進について



【問】中心拠点開発におけるまちづくり活動に向けた対応は。
【答】中心拠点を核に人の流れを創り、物やなりわいが集約される環境が整うことで、市民が交流するまちづくり活動の拠点をめざし、民間の開発事業者と連携し整備を進めます。

【問】子育て支援に係る具体的な推進方針は。
【答】新たに設置することでも家庭センターは、すべ

【問】子育て支援に係る具体的な推進方針は。
【答】新たに設置することでも家庭センターは、すべ

【問】子育て支援に係る具体的な推進方針は。
【答】新たに設置することでも家庭センターは、すべ

【問】子育て支援に係る具体的な推進方針は。
【答】新たに設置することでも家庭センターは、すべ

【問】子育て支援に係る具体的な推進方針は。
【答】新たに設置することでも家庭センターは、すべ

【問】子育て支援に係る具体的な推進方針は。
【答】新たに設置することでも家庭センターは、すべ

【問】子育て支援に係る具体的な推進方針は。
【答】新たに設置することでも家庭センターは、すべ

【問】子育て支援に係る具体的な推進方針は。
【答】新たに設置することでも家庭センターは、すべ

【問】子育て支援に係る具体的な推進方針は。
【答】新たに設置することでも家庭センターは、すべ

【問】子育て支援に係る具体的な推進方針は。
【答】新たに設置することでも家庭センターは、すべ

【問】子育て支援に係る具体的な推進方針は。
【答】新たに設置することでも家庭センターは、すべ

【問】子育て支援に係る具体的な推進方針は。
【答】新たに設置することでも家庭センターは、すべ

【問】子育て支援に係る具体的な推進方針は。
【答】新たに設置することでも家庭センターは、すべ

【問】子育て支援に係る具体的な推進方針は。
【答】新たに設置することでも家庭センターは、すべ



市民クラブ
さいとう あきら
齋藤 明 議員

○中心拠点開発でのまちづくり活動について
○ICT産業集積拠点整備の構想について



【問】ICT産業集積拠点整備に向けた基本方針は。
【答】岩手県立大学では5年度に企業学群構想を掲げ、大学とイノベーションセンター・パーク企業との連携を強化した集積拠点をめざしています。

【問】ICT産業集積拠点整備に向けた基本方針は。
【答】岩手県立大学では5年度に企業学群構想を掲げ、大学とイノベーションセンター・パーク企業との連携を強化した集積拠点をめざしています。

【問】ICT産業集積拠点整備に向けた基本方針は。
【答】岩手県立大学では5年度に企業学群構想を掲げ、大学とイノベーションセンター・パーク企業との連携を強化した集積拠点をめざしています。

【問】ICT産業集積拠点整備に向けた基本方針は。
【答】岩手県立大学では5年度に企業学群構想を掲げ、大学とイノベーションセンター・パーク企業との連携を強化した集積拠点をめざしています。

【問】ICT産業集積拠点整備に向けた基本方針は。
【答】岩手県立大学では5年度に企業学群構想を掲げ、大学とイノベーションセンター・パーク企業との連携を強化した集積拠点をめざしています。

【問】ICT産業集積拠点整備に向けた基本方針は。
【答】岩手県立大学では5年度に企業学群構想を掲げ、大学とイノベーションセンター・パーク企業との連携を強化した集積拠点をめざしています。

【問】ICT産業集積拠点整備に向けた基本方針は。
【答】岩手県立大学では5年度に企業学群構想を掲げ、大学とイノベーションセンター・パーク企業との連携を強化した集積拠点をめざしています。

【問】ICT産業集積拠点整備に向けた基本方針は。
【答】岩手県立大学では5年度に企業学群構想を掲げ、大学とイノベーションセンター・パーク企業との連携を強化した集積拠点をめざしています。

【問】ICT産業集積拠点整備に向けた基本方針は。
【答】岩手県立大学では5年度に企業学群構想を掲げ、大学とイノベーションセンター・パーク企業との連携を強化した集積拠点をめざしています。

【問】ICT産業集積拠点整備に向けた基本方針は。
【答】岩手県立大学では5年度に企業学群構想を掲げ、大学とイノベーションセンター・パーク企業との連携を強化した集積拠点をめざしています。

【問】ICT産業集積拠点整備に向けた基本方針は。
【答】岩手県立大学では5年度に企業学群構想を掲げ、大学とイノベーションセンター・パーク企業との連携を強化した集積拠点をめざしています。

【問】ICT産業集積拠点整備に向けた基本方針は。
【答】岩手県立大学では5年度に企業学群構想を掲げ、大学とイノベーションセンター・パーク企業との連携を強化した集積拠点をめざしています。

【問】ICT産業集積拠点整備に向けた基本方針は。
【答】岩手県立大学では5年度に企業学群構想を掲げ、大学とイノベーションセンター・パーク企業との連携を強化した集積拠点をめざしています。

【問】ICT産業集積拠点整備に向けた基本方針は。
【答】岩手県立大学では5年度に企業学群構想を掲げ、大学とイノベーションセンター・パーク企業との連携を強化した集積拠点をめざしています。

【問】ICT産業集積拠点整備に向けた基本方針は。
【答】岩手県立大学では5年度に企業学群構想を掲げ、大学とイノベーションセンター・パーク企業との連携を強化した集積拠点をめざしています。



2次総計は、公約と市民の声は十分に反映できず、その結果を踏まえ、盛岡保健医療圏での市の地域医療体制の在り方を検討します。

6年度は、地域医療体制の充実に向け、市民アンケートの実施および岩手西北医師会や医療機関などへのヒアリング等を予定しています。

その結果を踏まえ、盛岡保健医療圏での市の地域医療体制の在り方を検討します。

その結果を踏まえ、盛岡保健医療圏での市の地域医療体制の在り方を検討します。

その結果を踏まえ、盛岡保健医療圏での市の地域医療体制の在り方を検討します。

その結果を踏まえ、盛岡保健医療圏での市の地域医療体制の在り方を検討します。

▲計画説明会資料

会派代表質問

○第1子からの保育料無償化について
○学校給食費の無償化について



日本共産党
なかた たかゆき
仲田孝行 議員



【問】中心拠点商業地区開発事業で、民間開発が途中で頓挫した場合の代替案の検討は。

【答】当初計画より着手が遅れたものの、7年度中のフルオープンに向け計画的に進めており、現時点では検討していません。

【問】妊産婦保健事業および子ども家庭総合支援事業を重層的に捉え、増員された支援員による乳児への月1回の無料おむつ配布で、子ども虐待防止などの取り組みを進める考えは。

【答】6年度から始まる「産後ケア事業」により母子への心身のケアや育児サポートを行うことで、安心して育児ができる環境につながるかと考えますが、乳児への無料おむつの配布は考えていません。

【問】現在、第2子以降の保育料は無償だが、安心して子育てができる社会環境づくりを推進するな

【答】計画の策定において、65歳以上の市民に2種類のアンケート調査をするなど、必要な介護サービス基盤について調査しました。

【問】第9期介護保険事業計画(案)では特別養護老人ホームの増設には一切触れず、入居待ちの高齢者の要望に応えるものではない。要望に応えるための増設を計画に加えるべきでは。

【答】多額の財源を必要とするため、市単独で実施することは難しいと考えます。

【問】学校給食費の無償化に進むべきでは。

【答】本市は市内建設業の振興に寄りますが、社会経済の動向や事業者の声を把握しながら検討する必要があります。

【問】市内企業への支援で、限なしの保育料の無償化を市独自で実施するには多額の財源が必要となるため、現時点では考えていません。

【問】本市企業への支援で、産業振興条例の趣旨から経済の地域循環を重視し、住宅リフォーム事業を緊急に展開すべきでは。



▲市内の学校給食

○奨学金返済の補助制度構築について
○地域愛着向上事業の新たな展開について



公明党
あいはら たかひこ
相原孝彦 議員



【問】学生の奨学金の肩代わりや補助制度を構築すべきでは。

【答】県は認定企業への就職により奨学金返済の一部を肩代わりする「いわて産業人材奨学金返還支援制度」を設けています。

【問】子ども家庭センターは教育委員会も含め、子どもに関する相談や手続きのすべてが行える体制とすべきでは。

【答】子ども家庭センターは、児童および妊産婦の福祉や児童の健全育成のための包括的な支援などの調整役を担う機関です。

【問】生涯にわたる学びの支援に関するリカレント教育推進事業は。

【答】誰もが何歳になっても学び直しができるリカレント教育の推進のため、盛岡大学と協定を締結し、土日を利用した大学の公開講座なども検討します。

【問】新たな展開は。

【答】6年度は子ども子育て世代のほか、若者から高齢者まで楽しみながら滝沢を知るツールとして「滝沢市版まちづくりキットすごろく」をさらにアップデートさせ、活用機会の創出を図ります。

また、新たな市民との対話と市政への関心を高める手法として幅広い年代の市民を対象に参加を呼びかけ、あらかじめ設定したテーマを議論する(仮称)「自分ごと会議」

【問】農業資材や飼料の高騰、自然災害などを考慮した具体的な支援策は。

【答】物価高騰が続き、遅霜や大雨、高温などの気候変動が生じるなど、先行きが不透明であり、依

【問】農業者や飼料の高騰、自然災害などを考慮した具体的な支援策は。

【答】物価高騰が続き、遅霜や大雨、高温などの気候変動が生じるなど、先行きが不透明であり、依



▲滝沢市版まちづくりキットすごろく

議会モニター・傍聴者からの意見・感想(一部抜粋)

★議会だより第50号・第52号

●記事の中で確認したいことや気になること(第50号)
農地中間管理事業について…非常に重要で、大切な事と思います。私達の地域でも年々耕作を諦めざるをえなくなる農地が増えてきています。現状を見ると、市の進め方と実際の農業者の間でお互い重要な事とは分かっていますが、ずれがある様な気がします。

●全体的な感想(第50号)
①かっこうのさえずり、実際の生の声が聞けて良いコラムだと思います。(今は農作業に馬を使う事もなく実際に飼っている人は、はたで見ているチャグチャグ馬コとは違い本当に大変だと思います。)
②医療についての記事が多かった様に思います。市の医療体制の構築について期待しております。

●一般質問で興味があった記事(第52号)
市街地熊対策：山際に住んでいるので最近の熊(又は猪)の出没は非常に気になる処です。十分な対策をお願いします。

★傍聴者からの意見など(2月会議)

『感想』
新人議員の質問は、たいへん聞きやすく心地良く聴き入ってありがとうございました。良く勉強され、答弁者もお答えするのに気持良かったと思います。今後もそうあるよう期待します。

『意見』
議員は自分自身の足で情報を集め市民と語り合うという基本的な役割をしっかりと受けとめていただきたい。何人の人から情報いただいたかが関係している市民の話をとくさん聞いてほしい。

-回答-
今任期のビジョンとして「市政課題を市民と対話し解決に向け共に取り組む議会」を目指して議会改革を進めております。ご指摘のとおり、市民懇談会や議会報告会など市民との懇談の機会を多く持ちながら、市民の意見聴取に努めてまいります。